うるわし通信

一般社団法人
うるわしの桜井をつくる会
〒633-0091　奈良県桜井市
桜井1259エルトさくらい内
TEL&FAX:0744-43-7773
URL：http://lets.some.jp
E-mail：lets@some.jp

令和6年3月

磯田道史氏講演会

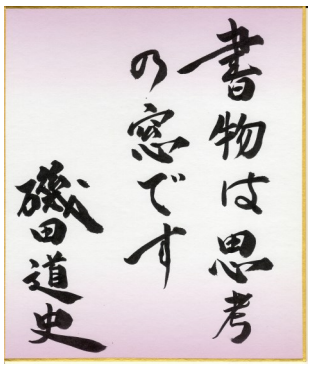
会場は熱気に溢れていた。開場の半時間前には受付待ちで40～50名ほどの列が出来ており、14時開演時には、300名定数の図書館研修室が満杯になっていた。市内はもとより遠方は和歌山や滋賀県からの歴史ファンを迎え、うるわしの桜井をつくる会主催で磯田道史氏（国際日本文化研究センター教授）の「考古学ファンとしてヤマトを語る」と題した講演会を開催した。この催しは、本会創設10周年を記念して企画していたが、コロナ流行のため4年間の延期となり、今年の2月開催となった。また、会場規模の都合でお断りせざるを得なかった多くの方々がおられた。

登壇された磯田氏は、聴衆の大きな拍手に迎えられ、会場に親に連れられた小学生も来ているのを見るや否や、手作りの古墳型のチョコレートをプレゼントされた。と言うのも、磯田氏は岡山市生まれで、身近に古墳などが在ったことから子どもの頃から大の考古学好きであり、若い世代に興味を広げたいと思っておられるのだった。

講演の主な内容は、「何故、前方後円墳は、あの形なのか」について、そして、「何故、桜井にヤマト王権が誕生したか」を中心に、参加者にさまざまな事例を紹介することによって、個々の事例が繋がって、そのように形づくられていったことを説得力のある分かりやすい話をされた。最後に、奈良市の富雄丸山古墳の発掘について注目していることを話され、休憩を取り、参加者からの質疑に移った。（質疑は、忍者の歴史や、邪馬台国の所在地等々多方面から出された。）

2時間があっという間に過ぎてしまうほどに感じられた磯田流の講演に、参加者アンケートからは、「歴史に関して益々関心が深まった」「楽しく歴史を知ることが出来た」などが多く記載されており、有意義な講演会となった。

なお、箸墓＝卑弥呼の墓に関わって、最近毎日新聞の書評で磯田氏が紹介された『何が歴史を動かしたのか』（春成秀爾氏編集）で箸墓の構造や、築造時期に関する話をされた。



理事　楠木 克弘

世界遺産登録の取り組みと桜井

「飛鳥・藤原」の世界遺産登録に向けての活動が熱を帯びてきた。令和8年度の登録を目指して推進協議会主催の講演会が去る1月20日橿原市のかしはら万葉ホールで開かれた。桜井市の山田寺跡が関連資産群に含まれているが、それ以上に桜井がこの際自覚して取り組まなければならない課題が見えてきている。講演会の基調講演を行ったICOMOS委員の宗田教授は次のように指摘した。

「世界の文化遺産というからには【モノとしての価値とならんで物語性】が重要である。飛鳥藤原の場合、それは日本国家の始まりの地ということだ」たしかに飛鳥藤原時代に国家寺院が確立し都市計画を含め本格的な国家体制が整備された。

しかし国の始まりというならば桜井の纒向遺跡はさらに古く3世紀から4世紀にかけて古代ヤマト王権が始まったところである。

今回の世界遺産関連資産群には含まれていないが、飛鳥藤原を論ずるなら、それより遡ること400年の古代ヤマト王権発祥の地である纒向遺跡を忘れてはならないとアピールすべき時だ。

纒向遺跡 国の史跡に指定されている。

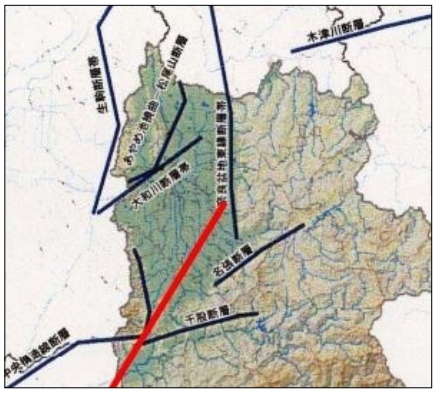
勿論、纒向遺跡の調査はまだ90%以上未解明で全容がわかるのははまだこれからである。調査が進めば日本の歴史を書き換える発見が続出する可能性がある歴史のホットスポットでこれからますます注目を浴びるだろう。

桜井市においても、行政も市民も力を合わせ調査の進展、機運醸成、地域の整備などを推進すべき時である。

うるわしの桜井をつくる会理事長
堀井 良殷

改めて防災を考える

私達の地元にも活断層が走っている



年頭に北陸地方で発生した地震は、能登半島を中心に多大な人的・物的被害を生み出している。今も避難所では、1万人を超える多くの人々が厳しい冬の時期を耐え忍んでおられる。

1995年（平成7年）の阪神淡路大震災の復興は、日本の物流での大動脈の「首根っ子」と言われたことから、倒れた高速道の解体と復旧、そして港湾整備の作業は24時間ぶっ通しで為されていたことを、記憶している。

能登地域は、観光地ではあるが過疎化が進んでいることや半島という地理的条件もあって、阪神淡路の地震での復旧・復興への取組と大きな格差を感じざるを得ない。

奈良県・和歌山県・三重県は紀伊半島という同様の条件であり、東・南海沖地震の発生についても警鐘が鳴らされている。また、奈良盆地周辺には活断層が網の目のように走っている。

防災専門家の河田恵昭氏（京都大学名誉教授）は、「心配しなければならないのは内陸直下型地震として、【奈良盆地東縁断層】による地震発生である」と指摘され、想定では、最大マグニチュード7.5，想定死者数：5,153名、負傷者数：19,045名。そして全壊家屋数：119,535棟 半壊：83,442棟で、炎上出火件数1,199件，残火災912件，焼失棟数3,310、避難人口：35万人（直後）、約44万人(1週間後)，というデーターが示されている。

異常気象・大雨による土石流災害も

桜井には、大雨による山崩れ・土砂崩れによる大きな被害が歴史的に伝えられてきている。いわゆる「音羽流れ」（876年）・「初瀬流れ」（1811年）・「粟原流れ」（江戸末期）等々、と云われるもので、河川沿いの山間部で大きな山崩れが起きて、下流域にも大きな被害が発生している。昨今の異常気象による大雨は、堤防ぎりぎりまで水量が増し、堤防が決壊すればその被害は甚大なものとなる。田原本町や王寺町では大和川が決壊して浸水被害が発生したことは記憶に新しいし、埋め立てや宅地造成の結果、山間部や水田での保水力の低下は明らかである。

最低限の防災避難物品の準備と地域での連携づくり

いつ、どのような災害が発生するかは、想定外のことが多発している昨今となっている。「備えあれば・・・」が最低限の自衛策であるが、それと併せて共助や互助の取組が日常的にあることが、地域の防災力につながっている。今一度、安全安心の地域づくりの機会を持つことが必要。先ず、身近な避難所を確認しよう。大丈夫？！？　理事　楠木 克弘

大雨での寺川の濁流（桜井西中学校付近）

令和6年新春交流会

新春交流会が1月21日(日)に木材振興センターあるぼ～るで開催されました。堀井良殷理事長の歓迎あいさつの後、子育てを頑張るママパパたちの居場所づくりに取り組んでおられる藏座かおりさん(子育て支援団体ほほえみ代表)を迎え「子育てをもっと楽しくもっと楽に」と題して、学校へ行かない選択をしている、また行ける日、いけない日がある子どもとパパママ達の現状と活動の報告があり。昨年の11月には広陵町竹取公園で「ほほえみフェスタおしごと万博2023」を開催、大人も子供も楽しめる、美容師・自転車修理・パティシエ・看護師・警備員の体験と消防士・自衛隊の制服を着ての記念撮影や複数のキッチンカーの出店等、多種多様な職種が集結して、参加した子どもたちが将来に夢を抱くイベントになったと紹介がありました。その後、参加者の自己紹介や近況報告に移り和やかな雰囲気の中でお開きとなりました。

桜井図書館友の会

● 3月の読書会は、『二十四の瞳』壺井栄(著) です。日本人に記憶され続ける反戦文学の名作。瀬戸内の一寒村に赴任した若い女性教師と十二人の生徒の交流を描く。

日 時：3月26日(火)15：00から

場 所：桜井市市民活動交流拠点会議室(エルト桜井2階内)

問合せ先 南部 ☎ 0744-43-5949 会員以外の参加も歓迎します。

編集後記

三寒四温で、春の到来を感じ、観梅の賑わいも各地から伝えられて来ている。コロナ禍も落ちついて、当会の様々な取組も戻りだしてきた。昨年は自治体統一選挙などもあり、何やら慌ただしさのある年であったが、新しく蒔かれた種が、芽を出す時期を迎えることとなるが、聞こえてくるのは県と一部市町村自治体との公共事業をめぐる「齟齬」である。

桜井市も県と5つのプロジェクト協定をおこなっており、地域の賑わいと活性化への基盤づくりが言われている。今後を見守ると共に、一定の役割を担うことが当会としても求められるだろう。(編集子 K)

うるわし通信発行人
ひがし俊克
TEL:090-3652-8104